

がん診療におけるPDCAサイクルの実施状況について

分野	番号	課題名	目標設定	Plan	Do	Check	Act
緩和ケアの提供	1	緩和ケアチームへの介入依頼件数の増加	緩和ケア支援チームへの依頼を、医師だけでなく看護師へも広げていく	電子カルテ上の、緩和ケア支援チーム依頼書の入力、看護師でも記入できるようにする	システムの運用を開始する（導入時期検討中）。	依頼件数を把握し、システムの評価を行う。	評価結果を関係部署に周知する。また、評価結果から明らかにになった課題について改善策を検討する。
	2	緩和ケア提供体制の充実	生活のしやすさ質問票を活用し、患者の苦痛に介入していく	入院がん患者を対象にスクリーニングを行い、苦痛のスケールがひとつでも7点以上であれば、緩和ケア認定看護師がラウンドを実施する。必要に応じて緩和ケア支援チー	H30年4月より実施。	介入件数を把握する。	評価結果をもとに、次年度の活動を検討する。
病病連携・病診連携	1	千葉県共用がん地域医療連携バスの運用率向上（前立腺がんの場合）	連携バス運用件数および参加医療機関の増加。（H30年5月から循環型連携バス運用開始）	地域医療連携バスのメリット等について、地域医療者からの理解を得てバスを受けてくれる医療機関の増加につなげる	医療機関訪問や講演会を実施	バスを利用している患者および連携医療機関を把握する	循環型のバスのため、1年後に受診していただくよう、紹介先医療機関にお知らせを送付し受診を促す。
相談支援	1	患者サロン内で要望のあったテーマに則した講義の開催	サロンの中で上った患者が知りたいと思う話題について、医療者が講義を行い、患者支援体制の充実を図る。	患者サロンの中で上がった話題や、会場に設置した「つぶやきノート」へのコメントなどからテーマを決め、講義の開催を調整する。	担当者による講義を開催する。	アンケートや受講者からの意見をまとめ、改善点や新たなテーマなどを抽出する。	より有意義な講義となるよう、サロン運営スタッフによる検討を行い、次回講義に活かす。
	2	サロンの参加者の増加	参加メンバーがほぼ固定してきているので、新規参加者を増加させる。	市の広報への掲載、病院のホームページやSNSへの掲載を検討する。	市の広報へ、一年間の開催予定を掲載してもらう。ミニ学習会がある際は、HPへ掲載し告知をしていく。	参加人数を把握する。	参加者増加につながるようであれば、継続して広報活動を行っていく。その他、運営スタッフで、より良い広報活動を検討していく。
がん患者の療養生活の質	1	抗がん剤の副作用による脱毛等にかかる支援の提供	治療中の患者に情報を提供し、副作用に悩む患者の療養生活の質向上につなげる。	定期的に業者による「医療用ウィッグ・美容ケア相談会」（無料・予約不要）を開催する。	入院・外来患者に周知のうえ、相談会を開催※院内での商品の販売は行わない	参加人数を把握する。	参加人数も増加し軌道に乗ってきたところなので、今後も継続的に開催する。
	2	抗がん剤の副作用による皮膚トラブル等への支援の提供	美容ケアに関する知識や技術について情報提供し、患者の療養生活の質向上につなげる。	カバーメイク専門業者による講義や実践会を開催する。	入院・外来患者に周知し、相談会、講義及び実践を行う。※院内での商品の販売はしない	参加人数を把握する。また参加者から感想や意見を募る。	当院では初の試みであったが参加者から好評を得ることができたので、再度の開催や新たなテーマでの講義・相談会の開催を検討する。
研修	1	「緩和ケア病床運営部会」主催による院内勉強会の受講者数増加	病院全体の職員の知識の底上げにより、病院全体における緩和ケア提供体制の向上をはかる。	参加の予定を立てやすいように、年間計画を各部署に配布する。	勉強会の開催	参加状況の把握、周知方法について課題を抽出する。	